厚岸町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

厚岸町の公共交通は鉄道と定期バス路線で構成され、地域住民の通勤、通学、通院、買い物などの足として重要な役割を果たしてきました。

しかし、公共交通の利用者数は、人口減少や自家用車の普及により、年々減少し、効率的な運行が難しい状況にあり、今後の鉄道や路線バスの維持が困難となっております。

こうした状況下において、近年の急速な少子化に伴い、スクールバスが運行しない地域が発生しており、また、高齢者の運転免許証の返納が進み、個別の交通手段を持たない町民が増加する中、現在の交通体系では交通空白地域が拡大し、町民生活の公共交通が確保できなくなることが危惧されています。

厚岸町において、デマンドバスの運行による郊外部と市街地を結ぶ路線は、地域の核であるJR厚岸駅を乗継拠点とした幹線交通への接続性を確保し、面的に厚岸町をカバーするための路線となっており、今後の厚岸町の地域公共交通ネットワークの構築とその確保・維持に必要不可欠な事業であります。

地域公共交通の現況

・JR根室本線（上尾幌駅、尾幌駅、門静駅、厚岸駅）
・くしろバス（株）（2路線）
・スクールバス（町内8路線）
・厚岸町デマンドバス(町内5路線)

協議会開催状況

令和4年6月29日　令和4年度第1回厚岸町地域公共交通活性化協議会開催
・令和4年度事業計画（案）
・地域内フィーダー系統確保維持計（案）
令和4年10月6日　令和4年度第2回厚岸町地域公共交通活性化協議会開催
・地域交通網の見直しに係る実証運行について
令和5年1月10日～18日　書面協議において決定
・地域内フィーダー系統確保維持計画に係る事業評価(案)を提出

生活交通確保維持改善計画の目標

・1ヶ月当たりの利用者数を236人とした。

令和４年度事業概要

●郊外部と市街地を結ぶデマンドバスの運行
⑴末広・床潭・筑紫恋線（末広～床潭～筑紫恋～厚岸駅）
⑵上尾幌・片無去線（上尾幌公営住宅前～片無去～町立病院）
⑶苫多線（上尾幌入口～尾幌・苫多・門静～町立病院）
⑷大別・太田線（大野前～太田～町立病院）
⑸トライベツ・若松・糸魚沢線（旧糸魚沢小学校～トライベツ・若松～厚岸駅前）
　トライベツ・若松・糸魚沢線（糸魚沢地区集会所～厚岸駅前）短縮便

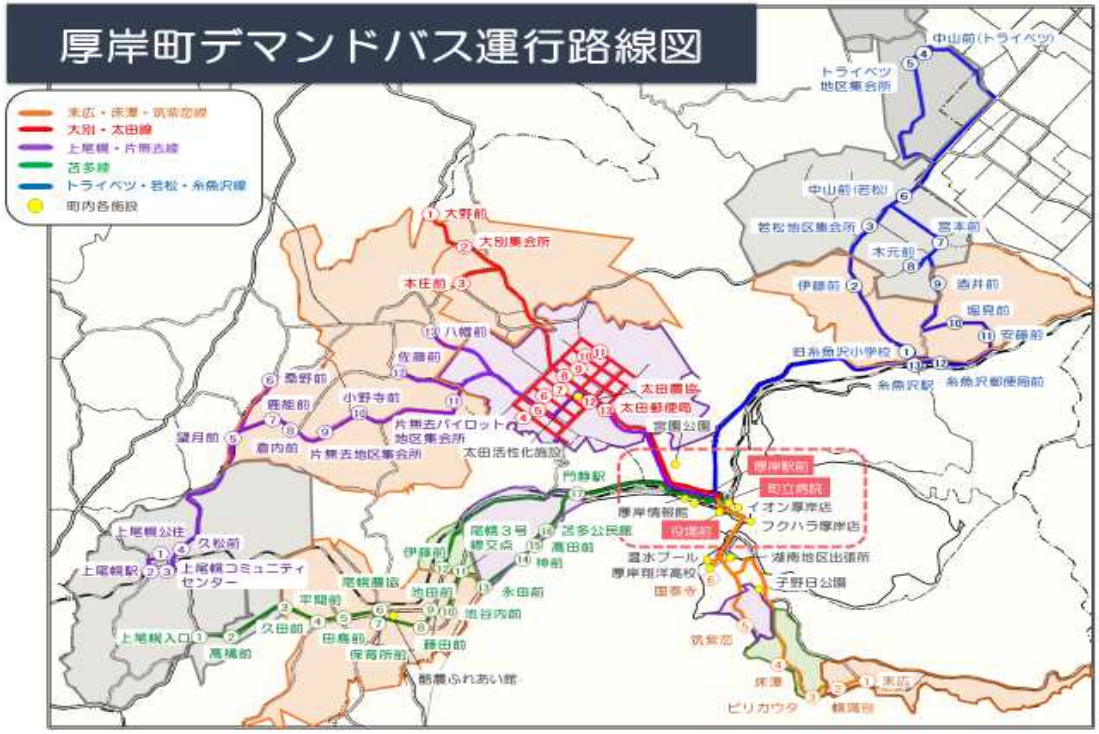
●車両減価償却費国庫補助金を活用し、車両購入（⑴,⑵,⑸の系統で使用）

令和４年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫

【プロセス】
・平成28年度に厚岸町地域公共交通活性化協議会を発足、町内公共交通の状況及び住民意識調査、町内地域公共交通の検討
・平成29年度に厚岸町における既存地域公共交通事業の見直しと新しい地域公共交通事業の構築検討
・平成29年度に厚岸町で導入を予定するデマンドバス事業に関する住民説明会、アンケート調査、バス乗降調査、実証運行試験の実施
　厚岸町地域公共交通網形成計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）を策定
・平成30年10月1日からデマンドバス運行開始
【創意工夫】
・フィーダー系統／デマンド型と位置付け、地域間幹線系統との円滑な接続を行うためのダイヤ調整
・デマンドバス運行開始に伴い、患者輸送バスの廃止
・スクールバスへの一般混乗

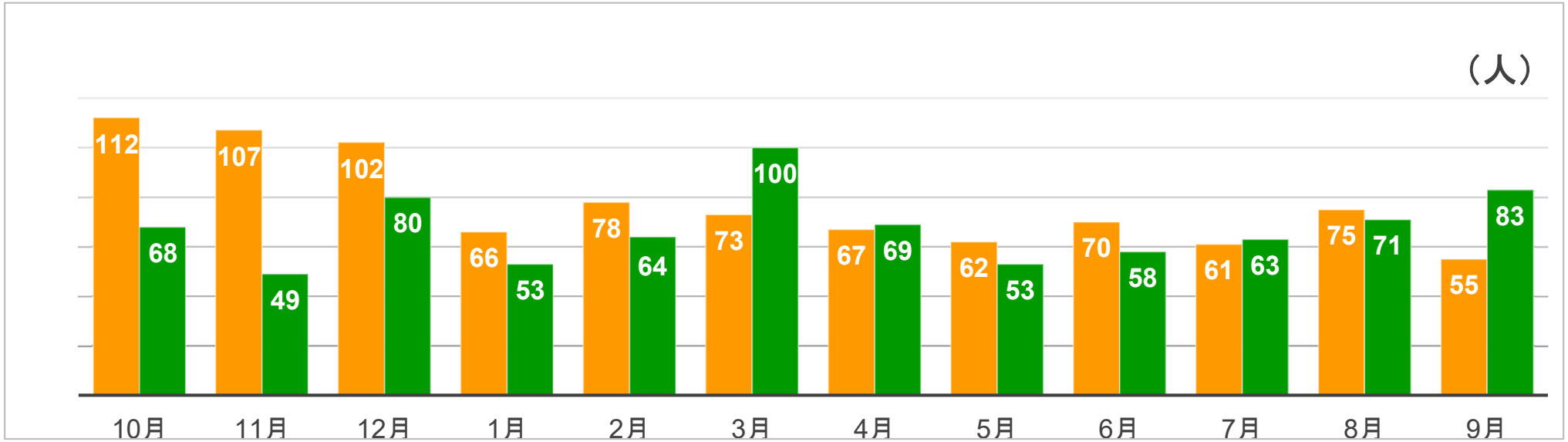
２）運行系統



３）利用実績

■ 令和3年度（令和2年10月1日～令和3年9月30日までの利用人数：928人）

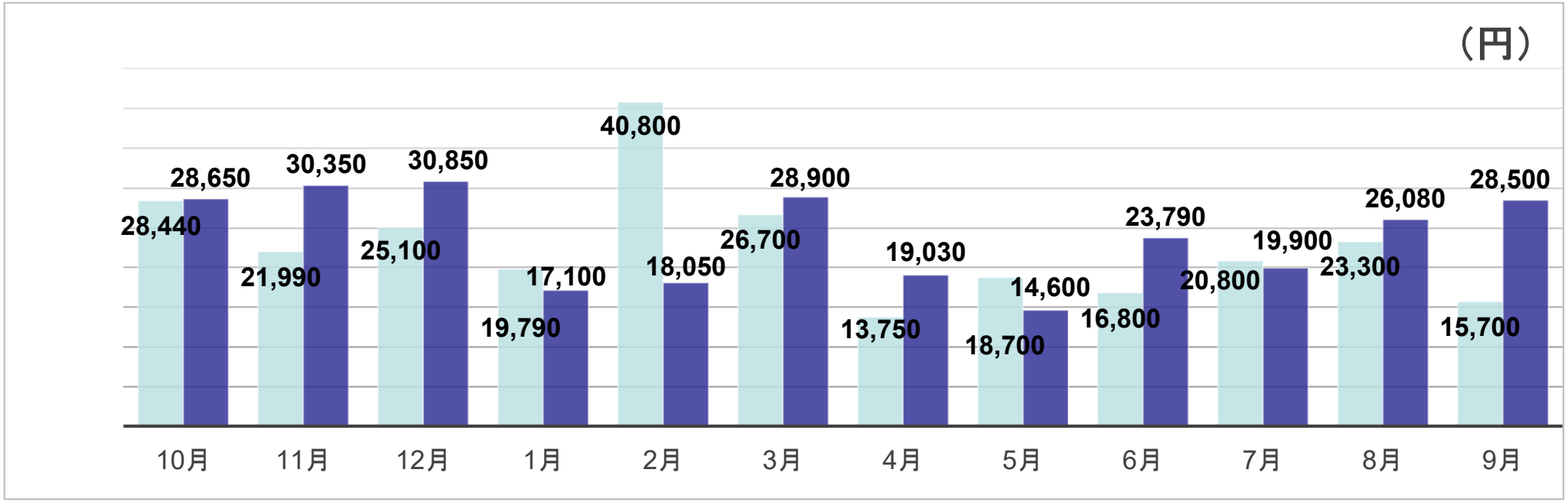
■ 令和4年度（令和3年10月1日～令和4年9月30日までの利用人数：811人）



４）収入実績

■ 令和3年度（令和2年10月1日～令和3年9月30日までの収入金額：271,870円）

■ 令和4年度（令和3年10月1日～令和4年9月30日までの収入金額：285,800円）



5）事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

6）目標・効果達成状況

1ヶ月の利用者数の目標は236人としていたが、利用実績として67.6人であり、目標達成とはならなかった。

個別の移動手段を持たない町民にとってはデマンドバスの運行により移動手段が確保され、利便性の向上が図られており効果はあった。

【各路線ごとの達成状況】

⑴利用人数　目標80人/カ月に対して実績20.8人/カ月、26.0%となっている。

理由：利用者の多くは高齢者であり、通院回数の減少及び新型コロナウイルス感染予防のための外出自粛が目標値へ到達しない要因と思われる。

⑵利用人数　目標60人/カ月に対して実績26.0人/カ月、43.3%となっている。

理由：利用者の多くは高齢者であり、通院回数の減少及び新型コロナウイルス感染予防のための外出自粛が目標値へ到達しない要因と思われる。

⑶利用人数　目標11人/カ月に対して実績3.7人/カ月、33.6%となっている。

⑷利用人数　目標24人/カ月に対して実績3.8人/カ月、15.8%となっている。

理由：利用者の多くは高齢者であり、同居家族の送迎（通院及び買い物）や利用地域人口の自然減によることが、目標値へ到達しない要因と思われる。

⑸利用人数　目標61人/カ月に対して実績13.3人/カ月、21.8%となっている。

理由：利用者の多くは高齢者であり、通院回数の減少及び新型コロナウイルス感染予防のための外出自粛が目標値へ到達しない要因と思われる。

7）事業の今後の改善点

人口減少による利用者の減少も懸念されるが、高齢者の運転免許証の返納により個別の交通手段を持たない町民が増え、交通空白地域が解消される見込がないことからデマンドバスの運行は今後も必要である。

他の公共交通との接続性を調整し、地域の自治会長や民生委員から地域状況について聞き取りを行い、利便性を目的とした実証運行を検討する等、 今後、改善点を確認しながら必要に応じて見直しを行う。

8）地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響等により、目標を達成することができなかったことはやむを得ない面があるものの、前年度より利用実績は減少傾向であり、このままの利用水準では補助対象外となってしまう可能性もあるため、地域公共交通網形成計画に基づく利用促進の取組を行っていただくとともに、利用ニーズに合わせた運行形態の検討も必要である。
- 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。